組織目標評価報告書（令和７年度）

部局名：	学域名：	部局長名：
理学部	環境生命自然科学学域（理）	阿保 達彦

目 標		目標に対する達成状況（成果）及び新たに生じた課題等
①教育領域	関連する中期計画の番号	**教育領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等**
【課題1】多様な学部入試の実施と志願倍率の維持・向上（前年度 前期日程 2.8倍、総合選抜3.7倍・推薦選抜3.2倍、編入学試験1.8倍） ・これまで実施している多様な入試の状況や対策の分析を継続実施するとともに、理学部の魅力を積極的な入試広報(オープンキャンパス、理学部案内冊子、ホームページ等)により発信し、大学全体として設定した志願倍率2.0を維持・向上する。 ・第3年次編入学についてはオンライン説明会等も実施する。 ・総合型選抜，学校推薦型選抜での合格者については入学前教育を実施、もしくは実施を検討し、実施した学科については受講者へのヒアリング等を通してその効果を検証する。	（2−2）	【課題1】達成：入試・高大接続部門との入試状況の検討会を7月に開催した。入試広報では教育ポリシー改訂の反映に努め、受験生へのアピール向上のため、学生の視点を意識してのホームページ改良など実施した。志願倍率は学校推薦型が4.2倍(前年度3.2倍）、前期日程は3.3倍(前年度2.8倍)と目標2.0倍を大きく上回るとともに、総合型選抜も2.5倍(前年度3.7倍)と目標2.0倍を上回った。第3年次編入学はオンライン説明会を2回（4月、11月）実施した効果もあって倍率は3.0倍（昨年度1.8倍）と向上した。志願者の学力が十分でないため定員充足には至らず、第二回募集により学力の維持を図った。
【課題2】就職・進学率の維持(希望者数に対する内定率は前年度100%) ・学部3年次に大学院進学と就職活動に関するキャリア展望ガイダンスを実施する。各学科での進学・就職活動支援及び進路状況把握を徹底する。	（2−1）	【課題2】未達成：3年次生全員を対象に大学院進学と就職活動についてのガイダンスを実施するとともに、各学科での学生支援と進路状況把握に努めた。令和8年2月末時点就職・進学率は91%（昨年度同時期93.8%）と高水準を維持した。
【課題3】海外学生派遣数(前年度4名)と外国人留学生受入数(前年度18名)の向上，学部学生の英語力向上 ・Target2025の枠内で国際化教育(海外体験、英語力育成、国際的な研究活動)の周知，奨励を継続する。海外協定校からの短期留学生受け入れ増を目指すとともに、私費外国人留学生入試等により、一定レベルの留学生受入数を確保する。	（3−1） （7−1）	【課題3】一部未達成：学部生の海外派遣留学生は15名(前年7名)と倍増した（達成）。学部生の外国人留学生受入は前年より減の8名であった（未達成）。
【課題4】海洋科学関連のグローカル（国際・異/応用分野包括的・地域共創型）教育研究 ・附属臨海実験所では「ミッション実現戦略分」教育活動・成果に選出された教育関係共同利用拠点「多様な生物・戦略による研究直結型教育のグローバル共同利用拠点」のDX環境を活用し、国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業の支援も基に、研究直結型実習「先端統合生体制御学国際コース」（10名前後の国外講師を招聘する国際シンポ at ZEB UMI等）を学内外の臨海実習と実施。全国トップレベルの延べ5千人/年の共同利用を目標とする。これらを背景に研究直結型グローカル共育共創ハブとして共同利用拠点の再々更新を申請する。	（1−2） （3−1） （7−1）	【課題4】達成：附属臨海実験所では、「先端統合生体制御学国際コース」を約15名の国外講師（ハーバード大、ハワイ大、カルガリー大、ミシガン大、オタゴ大、オクラホマ州立大等）招聘の国際シンポジウムや、10大学が結集した小型魚類遺伝学ワークショップと共催で実施し、「ブルーカーボン（GX）グローカル実習」では生物情報学を活用した環境DNA解析等のデータサイエンスや、CREST「海洋カーボン」とも連携したカーボンニュートラルに関する取り組みを行うなど、学内外の臨海実習を展開した。これらの研究直結型実習により、延べ5,000人超／年の全国トップレベルの利用を維持した。以上を基に、教育関係共同利用拠点「多様な生物・戦略による研究直結型教育のグローカル共育共創拠点」として申請し、四期連続認定された。
②研究領域	関連する中期計画の番号	**研究領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等**
③社会貢献（診療を含む）領域	関連する中期計画の番号	**社会貢献（診療を含む）領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等**
【課題1】地域の高等学校・高等専門学校の理科教育・キャリア教育への貢献 ・高校生の理科・数学の課題研究への指導や講評の機会に、これまで同様理学部教員が積極的に参画することに加え、高校理科部会総会の理学部での開催の機会等で、高校教員や教育委員会との意見交換の場を設ける。また、高等専門学校生の研究インターンシップ受入プログラムを継続して実施する。	（6−1） （14−1）	【課題1】達成：5月の岡山県高校理科部会総会の機会に高校理科教員らと理学部教員の意見交換の場を設けた。1月には岡山県理数科課題研究発表会に理学部教員が講評審査や助言を担当し高校生の課題研究の向上に寄与した。教員による高校での理科・数学の出前授業や課題研究助言等への参画も多く実施された。高専生の研究インターンシップは5プログラムで計9名(昨年は5プログラムで計12名)受入れ実施した。
【課題2】岡山大学理学部の教育・研究実績の社会への発信・還元 ・公開講座を2回開催し、うち1回はホームカミングデイ企画として実施する。	（6−1）	【課題2】達成：公開講座「RSA暗号と合同式～インターネットを支える数学」を9/27、「ウーパールーパーの生物学 ～再生の話と 皮膚の話～」を11/1に実施し、アンケートの結果も好評であった。 また，11/15にオープンキャンパス関連事業「Okayama Workshop on Partial Differential Equations」を開講するとともに、8/8−10に工学部、総合技術部と合同で「おもしろワクワク化学の世界 '25岡山化学展」に出展した。
【課題3】異分野融合研究の地域共創DXリソース、自治体・企業等との拠点構築と実質化 ・附属臨海実験所では、地域の海洋河川の生態系デジタル情報の環境DNAデータ等を含む生物材料、研究機器の学外利用、ゲノム関連技術等による先進的な水産育種技術の産学共同研究等を推進する。これらを基に、特電委託研究の継続獲得を目指す。また、瀬戸内市の臨海多様性プロジェクトリーダーが常駐する体制を維持し、地域をパートナーとした研究を発展させる。さらに、海洋発電の影響等のオーダーメイド型データ提供サービス事業を㈱ハイドロヴィーナス（岡山大発ベンチャー）や関電工/東電HDとの共同研究として実施する。	（1−1 ） （12−2）	【課題3】達成：附属臨海実験所では、CREST「海洋カーボン」への参画や特電委託グループ研究の4連続獲得も基に、地域のDNA資源データを内閣府総合知ワークショップ等でも発信、提供した。瀬戸内市との密接な協力により「環境フェスタin瀬戸内」で広く発信した。㈱ハイドロヴィーナスと関電工/東電HDの海洋発電の影響評価等のオーダーメイド型データ提供サービス事業（東電HD共同研究費など）を継続した。
④管理運営領域	関連する中期計画の番号	**管理運営領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等**
【課題1】上位職(教授・准教授)女性教員数、及び女性教員割合(2025年度4月時点で5.9%)の向上に向けた女性教員採用割合の向上 ・上位流用制などを積極的に利用して、女性の教授数向上を目指す。また、採用人事(特任や研究助教を含む)は、研究力強化の観点とともに、女性の教員増にも配慮して、WTT制度などを積極的に利用，採用ポイントを効果的に運用するなどし、年度内に採用、または採用内定する教員における女性割合20%を目指す。 ・学生・教員によるFD交流会で女子学生から提出された意見に基づき、学部内トイレの改修など、女子学生・女性教員に利用しやすい環境整備を進める。	（2−2）	【課題1】達成：女性限定公募を実施した効果もあり、教育分野で極めて緊密な連携関係にある異分野基礎研も合わせ、女性教員数：6人（女性教員割合：6.9%）を達成し昨年度より改善した。上位職の女性教員数：5人（上位職の女性教員割合：5.7%）は昨年度と変わらない。来年度から採用のWTT教員の受け入れを内定し女性教員割合はさらに改善が見込まれる。教員人事以外では学生・教員によるFD交流会での女子学生からの意見に基づき、学部内トイレの改修など、女子学生・女性教員に利用しやすい環境整備を進めた。
【課題2】若手教員割合(2025年度4月時点で7.2%)を大学全体の目標25%に近づける。 ・WTT制度などを積極的に利用するなどし、年度内に若手教員２名の採用、または採用内定を目指す。	（9−2）	【課題2】未達成：若手教員の割合は9.2%と，昨年度より向上するも目標には達していないが、来年度から採用のWTT等の若手教員により若手比率は改善が見込まれる。
【課題3】理学部内のインナーブランディング向上のための学部内企画の推進 ・毎月の理学部全教員参加の教授会・協議会(オンライン)の前に「理学部研究交流セミナー」(主に若手教員が研究紹介)を行い教員間の研究面での理解を深めるとともに、FD研修会を実施する。	（3−1） （9−2） （11−2）	【課題3】達成：毎月の教授会・協議会（全教員参加の教員会議・基本的にオンライン開催）に先立つ時間帯を利用して「理学部研究交流セミナー」(主に若手教員が研究紹介)を開催し、教員間の研究面での理解を深めるとともに、その実施がない月にはFD研修会を実施し、教職員の能力，意識向上に務めた。
【課題4】臨海実験所を中核とする海洋科学に関する全学的な教育研究の組織体制構築 ・新女性所長の下、更なる教職員（女性）雇用とともに、共同利用運営委員会を刷新して過半数を女性とし、地域の企業、自治体からの委員を配置する。またグローバルエンゲージメントセンターの国際拠点として、全面改修の完了した『ゼロ・エネルギー・ビル』の産学連携ラボ・地域共創ラボ・オープンラボ（被災支援）・外部研究者等のゲストハウス等を活用し、台湾・中央研究院との研究者の交流等によりブルーカーボン関連研究での国際連携を強化する。全学グループとも連携して次世代研究群へ応募し、J-PEAKS推進に貢献する。	（1−2 ） （8−1）	【課題4】達成：新所長以下教職員の半数を女性とし、本学女性研究者支援事業も基に共同研究体制の強化、海外派遣（ペルージャ大、ソルボンヌ大）による共同研究を進めた。また、共同利用運営委員会の過半数を女性とし、外部委員を含む運営会議を『ゼロ・エネルギー・ビル』の披露も兼ね開催した。改修に伴い共同利用施設を強化し、本学研究拠点形成支援事業、特電委託グループ研究の連続獲得などにより、ブルーカーボンやゲノム育種のDX研究、学内他部局との協働など全学的な研究体制構築、台湾中央研究院等との国際連携を進めた。学振PD2名、研究助教2名の受け入れ、共同利用拠点や学術変革Aの採択による助教の雇用など若手教員の雇用も進行している。

注1） 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。

注2） 自己評価による達成度（5～1）は非公表項目とし，組織目標評価結果を公表する際に消去します。